広詠む

新年をことほぐ

ゆくへ

米川千嘉子

餌台より雀ら去りて四十雀来るまで零るひかりのことば

「未来」とはいはず「ゆくへ」といふ時代にも水仙のつめたきあたらしき香よ

令和七年のゆめ

加藤　治郎

黒豆のみっしりならぶゆたかさに家族をおもう父母の居て

妹と蜜柑の剝き方ちがうのはすこしおかしくふるさとのゆめ

一人称

水原　紫苑

東京もパリも寒きを寒月にいのる心を捨てなむわれか

旅にして旅にあらずも月光の及ぶかぎりはカルチエラタン

チャージ

伊藤　一彦

老いゆけば我より若き人増えて愉しからずや今日の宴も

若ものに〈チャージ〉されゐる老人は若ものののため働くべきを

毎日歌壇

米川千嘉子 選

take your marks　1コースから8コースまで磨き抜かれたアキレス腱たち　長岡市　三月　とあ

〈評〉競泳のスタート台に立つ鍛え抜かれた身体。その中のアキレスけんに注目したのが楽しい。金属を思わせる表現だ。

鴨三万白鳥三千大山の池に憩へり争ふことなく　鶴岡市　大沼　葉子

〈評〉ラムサール条約登録湿地になっている山形県鶴岡市内の池。結句が静かに響く。

久々に買い物届けに来た息子ちらりと見せた亡夫のまなざし　横浜市　小林貴以子

ナイロンのプラダのバッグが好きだったシャラシャラペラペラ生きて来ました　三　重　中山由賀子

手拍子にのって踊れば目尻から徐々に剝がれて舞う付け睫毛　川崎市　大平真理子

骨壺の母に語りつ老い父は「世話になったね毎日毎日」　東　京　東　賢三郎

ボクシングのことは知らねどジャブのよに効いてくる独りとふ現実　大阪市　鈴木　雅子

セルフレジ、マイナ保険を前にしてシニアはこの世を彷徨っている　東　京　新美喜代男

子育てを評価するごと吾子たちはわれの拘り無視して歩む　伊丹市　岡本　信子

レシートにブックカバー二枚四円　冊数分をくれた日懐かし　大阪市　山本　英子

加藤　治郎 選

母親のテレビ体操跳躍はズレてお手本より多く跳ぶ　大津市　佐々木敦史

〈評〉高齢の母だろう。テレビを見ながらの体操である。ズレてもよい。お手本より多く跳ぶ姿に生きる力と自在さがある。

家計簿と五年日記と介護日記　夜間工事の聞こえる部屋で　千葉市　佐藤　綾子

〈評〉介護日記が別にある。深い思いを感じる。夜間工事に日常の現実感がある。

冬の陽にやきたてパンのまぼろしを　やさしい人にまだなりたいよ　仙台市　古川　柊

病院を出ればまぶしいそこかしこ　あなたは鳥になりたいと言う　所沢市　神田　望

砂がまた僅かに減った公園で持て余してる過去を話した　大津市　世田　夏雪

真夜中のキッチンでしか生きられないあの青のこと、話したかった　東　京　境　千尋

壊れても直せなくてもたたいたらわらってたんだ青い舗道で　平塚市　芝澤　樹

冷えた耳の切り離されたような孤独を癒すヒーターの熱　山形市　新道百合子

強がりなあなたの声はとめどなく電話の向こうに降っている雨　武蔵野市　北谷　雪

早朝の水辺でふいに心からこぼれた雫は海へと向かう　四万十市　佐竹　紫円

水原　紫苑 選

赤い目が銀の山々かきわけて大雪野原とびはねまわる　京都市　森田　誠生

〈評〉赤い目とは何か。ウサギのようだが、太陽のようでもあり、全く未知の何かかもしれない。

こもれびを踏んだ途端にこもれびの豹柄が全身に乗り移る　甲府市　村田　一広

〈評〉こもれびはヒョウだったか。つきあいにくいはずである。

蛇口から落ちたがらない水滴は燦然とした世界を夢見た　札幌市　橘　晃弘

この町のどこもあまねく冴える夜春の兆しの冬蜂の死　北名古屋市　月城　龍二

言わなくていいことを言った帰り道こんな声なら人魚にあげる　東　京　遠野　鈴

わが額に出でたる黒き紋章が北へ北へと求むる故郷　雲南市　熱田　一俊

振り向くな　いまの背中のぬくもりは眼を刺してくる天体の息　四日市市　早川　和博

血の気が引いていくなら満ちてもいくでしょう　鉄の匂いの豊かな獣　川崎市　二宮　珊瑚

手のひらを開けば光を失った蛍みたいな私の言葉　横浜市　友常　甘酢

水鏡割れて網膜を焦がすから信じたいものは本当になる　鶴岡市　鳥井　景

伊藤　一彦 選

鳥の影、おもかげは矢のようにきて風に崩れてゆくまでを抱く　東　京　碓井やすこ

〈評〉「鳥の影」は実景あるいは「おもかげ」を導きだすための言葉かも。いずれにせよ、この2語を重ねての下の句が秀逸。

白光が眼裏を焼く病室に故郷の訛りきよこの夜　土佐市　関谷　朋子

〈評〉上二句の措辞が鋭い。降誕祭の夜の孤独な病室で聴く故郷のなまりの懐かしさ。

おめでたうとねぎらふ国の空々しさ被爆者補償を拒み続けて　北広島市　富丘　治生

すれすれの飛行機の腹この町の海陸風は言葉をちぎる　東　京　夏目　そよ

もう何度私を救ってくれただろう苺ショートのほのかな酸味　横浜市　友常　甘酢

愛情の等価交換求めては傷ついている罪な幼さ　奈良市　久保　祐子

ひび割れた鏡に映るおぼろげな人生二度目のクビ宣告　中　国　岸　志帆莉

助けてとかける私が胸にいてずっと鳴り止まない黒電話　東　京　石川　真琴

錯綜する情報の中で目を閉じて私のかたちの闇に安らぐ　加古川市　山田　麦

岬鼻の沖の神島冬怒濤波の間に間に漁船の揺るる　尾張旭市　小野　薫

投稿規

し、宛先は
部、短歌は
○先生（希